

## 「フィリピン研修参加報告書」

京都大学文学部・二年 國島 知美

派遣期間は一週間でしたが、とても濃い一週間となりました。主に、フィリピンと日本の間の人の移動と、それにかかわる問題について諸団体を訪問することで理解を深めました。この研修は京都大学での演習授業とセットになっており、その演習では中学校での JFC(Japanese Filipino Children)の学習支援活動を行います。その支援活動では、フィリピンから日本に来た JFC の子達が日本の学校での勉強についていけるよう、放課後におこなわれる学習活動の手伝いをしました。中学校で接する生徒たちは皆明るく、はじめはとくに何も考えずに指導していましたが、そのうちに、彼らが日本に来た背景やそれがフィリピンと日本の間で起こっている社会問題に繋がっているということを知るようになりました。そして、彼らのことをもっと知りたい、フィリピンでの生活やどうして日本に来たのか、今自分やフィリピンと日本についてどのように思っているのか、そう思うようになりました。今回の研修では、彼らに関わる問題やそれ以外のフィリピンと日本の関係について、個人レベルではなく団体、政府レベルで学んできました。個人旅行では絶対に行くことはできないような場所にばかり連れて行ってもらえてとても貴重な時間を過ごすことができました。

フィリピンのことを知りたいと言いながらも、研修前はほとんど知識を持っていませんでした。知識がないというより、問題が大きすぎて全体像をとらえられていないという方が正確かもしれません。ぼんやりとつかんでいたフィリピンと日本の関係を今回の研修ではよりクリアに出来たと思います。研修期間の間は、とにかく多くの人に話を聞きました。CFO(Commission on Filipino Overseas)という政府の機関やマリガヤハウスという NGO 団体、フィリピンから日本へタレントを送り出しているプロモーターの方や日本での介護士・ハウスキーパーを育成、送り出しをしている方、そして実際に日本に来て働いていた方とその子供など、様々な立場の人に話をうかがいました。そうして多くの視点からフィリピンと日本の関係を見ることで、理解を一層深めることが出来ました。また、実際にフィリピンに行くことでそこでの生活の様子も感じる事ができました。フィリピン滞在で特に印象深かったのは、笑顔が素敵な人ばかりなところです。そして、人と人のつながりが強いと感じました。そういう、人々の気質のようなものもなんとなくですが知ることが出来て良かったです。

研修前は正直、政治的なことについては興味がほとんどありませんでした。今回の研修では多くのものを見させてもらい、特に国と国との関係について興味が湧いてもっと知りたいと思うようになりました。